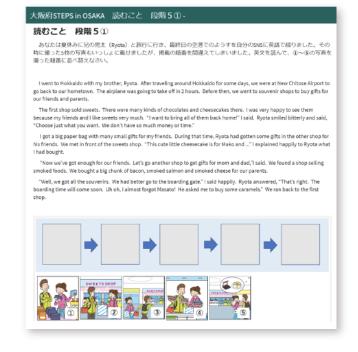


児童生徒1人ひとりの外国語(英語)の学習到達度に応じ、 1人1台端末を使用して個別最適な学びを実現するための学習ツールです。

大阪府が作成した、4技能5領域と CEFR-J (PreA1  $\sim$  B2.2 の 10 段階)に準拠した「大阪版 CAN-DO リスト」の 各段階に応じたテスト問題 (STEPS 問題) を、文部科学省のMEXCBT 上に搭載しました。 各学校では、学習 e ポータルを活用して STEPS 問題を解いたり、解答状況を確認したりすることができます。



## [STEPS] とは、

「Self Training for English Proficiency of Students」のイニシャルを取った造語です。

「Self Training」という点が大きなポイントです。 一斉学習で協働的に英語を学ぶだけではなく、 子どもたちが"英語を使って何ができるようになるか"を 明確に意識しながら学習を進めていくことを実現します。

もう一つのポイントは「Proficiency」です。 Proficiency を「習熟度」「技量」と捉え、 子どもたちが自分で問題を選んで、既習内容の練習や、 少し先のレベルの問題にチャレンジすることができる ツールです。